

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

研修目標の概要

- 1) 当科は、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚など多彩な感覚機能の障害を扱い、また、呼吸や嚥下など生命維持に直結する機能も取り扱う診療科である。なかでも、聴覚や発声などのコミュニケーションに関係した高次神経機能の障害は高齢化社会を迎え患者の増加が予測され、失われた機能の回復は広く社会の求めるところである。取り扱う患者は、感染症主体の小児から悪性腫瘍や感覚機能障害を主な疾患とする高齢者まで幅が広いとため、全人的対応のできる臨床医を目指して研修する。
- 2) 初期臨床研修（医師免許取得後2年間）で身につけた一般臨床研修目標については後期臨床研修においても重要な基盤となる。その上で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の全ての領域について可能な限り多くの症例を経験させ、オールラウンドな耳鼻咽喉科・頭頸部外科医の育成をおこなう。
- 3) 後期臨床研修の期限は4年間であり、この研修を通じて耳鼻咽喉科専門医の受験資格を得ることができる。また、サブ・スペシャリティとして日本アレルギー学会認定専門医、日本気管食道科学会認定医などの受験資格を得ることができる。

1. コース

- 1) **耳鼻咽喉科大学院コース（4年間）**：大学院に入学し、関連領域の研究に従事する。1年～1年半の臨床研修の後に、研究に従事する。原則として、耳鼻咽喉科・頭頸部外科教室の中において研究活動をおこなうが、状況に応じて、国内、国外への短期研修留学も考慮する。領域としては耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域におけるアレルギー免疫、癌免疫、生理学など多岐にわたる。4年間で学位（医学博士）を取得することができる。その後、1年間の臨床研修により、耳鼻咽喉科専門医の受験資格を取得することができる。
- 2) **耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門医コース（4年間）**：主として大学病院および関連病院（研修施設認可病院）での勤務をおこなう。大学病院での研修では、外来患者および入院患者の診療を担当する。入院患者の診療では診療チームに在籍し、指導医の指導を受けつつ診療をおこなう研修をすすめる。また、施設ごとの特徴がある関連病院での研修では、研修期間中に複数の関連病院で研修をおこない、可能な限り多様な症例を経験するよう努める。

2. 研修計画

- 1) 一般臨床研修目標の習得を引き続き目指す：
 - a) 基本的診療の知識・技能・態度の習得
 - b) 緊急患者の初期診療
 - c) 慢性疾患・高齢患者の管理
 - d) 末期患者の管理

- e) 患者・家族との人間関係
- f) 患者の心理面・社会面の問題解決、説明、指導
- g) チーム医療
- h) 紹介・転送に関しての適切な判断
- i) 適切な診療録の作成
- j) 思考力、判断力、創造力、自己評価能力の作成

2) 外来診療：

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の外来患者を以下の諸点に留意して適切に実施する能力を養う。

- a) 必要な症候学の知識に精通し、適切な問診が取れる能力を有する。患者心理を理解して問診する態度を身につける。
- b) 外来でおこなう検査の方法や検査機器を理解し、必要に応じて十分な検査をおこなう。
- c) 問診、症状、所見による診断ならびに鑑別診断をおこなう。
- d) 疾患の内容、程度を把握し、適切な専門的外来治療をおこなう。
- e) 必要な知識を理解し、他の医療従事者と協力して問題を解決する。
- f) 救急疾患、外来診療にともなう偶発症に対する診断能力、処置能力を身につける。

3) 入院診療：

主治医として耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の基本的臨床能力を持ち、入院患者に対して全身、局所管理を適切に実施する。

4) 検査：

耳鼻咽喉科領域の専門的検査の適応にしたがい、指示（依頼）あるいは実施をし、結果を判定評価して問題解決のために利用する。検査施行前には検査の意義・必要性・方法、検査にともなう苦痛、起こりうる問題、所要時間、検査前の注意事項などについて患者や家族に説明する。また検査結果を説明し、必要な指示、指導をおこなう。

5) 手術：

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の基本的手術に関する意義、原理を理解し、適応を決め、手術手技を習得し、手術前後の管理をおこなう。

以上の目標を4年間の研修期間で達成できるよう、研修をおこなう。

各種学会（地方会、国内学会、国際学会）、教室主催の研究会や講演会、抄読会や輪読会は適宜実施され、研修医はこれらの会に積極的に参加する。

耳鼻咽喉科指導責任者：原淵保明教授 指導医数：10名

連絡先／担当者 林 達 哉

e-mail address: thayashi@asahikawa-med.ac.jp

TEL：0166-68-2554、FAX: 0166-68-2559

診療科 Home Page Address: <http://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/oto/>